

入選

いつかこの恩を

青森県 東中学校 二年
葛西 那歩

私は毎日朝起きて、ご飯を食べて、学校に行って授業を受けたら、放課後には部活をして、家に帰って来ます。その後ご飯を食べて、お風呂に入って寝ます。しかし、このルーティーンは、私の母により成立しています。

どういうことかという、私の母は、朝早い時間から夜遅くまで働いています。その上、疲れていても家事をすべて一人でこなしています。夜には、おいしいご飯が食卓に並べられていることが、とても幸せです。

私は、ふと思うことがありました。それは、たまに私が家事の手伝いをしたときに、母からいつも、「ありがとう。」

と言われることです。しかし、考えてみると母が家事をしていても私からは、「ありがとう。」なんて、一切口にしたことがありません。つまり、私にとって母が家事をするのは、当たり前のような感じになってしまっていたということです。

ある日、母の仕事が終わり帰って来ると、疲れですぐに寝込んでしまいました。家事がすべて終わっていなかったのも、私が皿洗い、洗濯干しなどをすべてやりました。私には、いつもの倍の疲れが感じられました。

母は仕事終わりで家事などしたくないはずなのに、こんなに疲れるものを、文句一つも言わず毎日やってくれていることにとっても感謝しました。最近では、母の負担を減らすために、ほとんど毎日家事を手伝うようにして、親孝行のときを増やしています。

母の気持ちはわからないけれど、少しでも自由時間が増えたことは確かです。私もできれば家事はしたくないのですが、今までの母への恩返しだと思って、続けてやろうと思います。

あともう一つ。祖母は、私の言ったことをほとんどやってくれます。例えば私が、「服欲しいな。」

とぼそそと言ったら、後日いっしょに服を買いに行ってくれます。他にも私が、

「ここに行きたいな。」と言ったとき、覚えていてくれて後日、そのお店に連れて行ってくれます。私の祖母は心が広く、どんなことにも向き合ってくれます。

そんな優しい母と祖母の元に生まれてきて良かったな、と思います。そして、この母と祖母の優しさが私の心のワクチンになっています。

私はいつかこの恩を、倍にして返してあげたいです。